

No. 2814



教育ルネサンス

共通テストまで半年 2

文章量増える国語速読力ギ

2025年1月の大学入学共通テストから大問数が増やされる国語。問題を解く実力があっても、試験時間が足りずに答えきれない。そんな心配から、速読を学ぶ受験生が増えている。

「日本速読解力協会」(東京)によると、全国の塾約5500教室が導入した。柚木進学ゼミでは現在、小中高校生約70人が速読講座を受講中で、希望者は半年以上の順番待ちとなっている。同塾を経営する柚木真澄さんは「早く正確に読むことができれば、近年、入試で増えている思考力を問う問題にも対応しやすくなる」と速読が人気を集める理由を説明する。

■順番待ちの人気

岡山県倉敷市の学習塾「柚木進学ゼミ」で6月24日、岡山県立倉敷天城高校2年の千田真子さん(16)が速読のオンライン教材に取り組んでいた。

「昨日、家族で中華料理を食べに行きました。餃子と麻婆豆腐と……」

手元のタブレット端末に表示されているのは、4行の文章。「読めた」のボタンを押すと、文章が消え、関係した問題とその選択肢が表示される。

問題は「昨日の夜食べていないものはどれ?」といった内容。じっくり読めば誰でも解答できるが、千田さんが読むのに費やした時間はわずか2・1秒。「頭の中で音読するのではなく、文章を塊でとらえるのがコツです」という。

このオンライン教材を提供している一般社団法人



タブレット端末を使って「速読」を練習する生徒たち(6月24日、岡山県倉敷市の学習塾「柚木進学ゼミ」で)

資料読み取る問題 早く正確に

現代文で設問重く変更点

来春の共通テストからは近代以降の文章(現代文)に、複数のグラフや表と文章を読み解く「第3問」が追加される。文章量だけでなく、複数の情報を関連づけて読む力が、より問われるようになる。

※大学入試センターの資料から作成。カッコ内は配点

従来の共通テスト		2025年以降	
第1問	近代以降の文章(50)	第1問	近代以降の文章
第2問	近代以降の文章(50)	第2問	近代以降の文章
第3問	古文(50)	第3問	近代以降の文章
第4問	漢文(50)	第4問	古文(45)
	試験時間80分	第5問	漢文(45)
			試験時間90分

英語や政経も問題文多く

「制限必要」との外部評価

共通テストでは文章量の増加が目立つ。

大学入試センターが公表した、今年1月の共通テストについての高校教員らによる外部評価結果では、「英語」や「政治・経済」、「物理」などの指摘がされた。リーディングで問題文の多さが指摘された。

このうち英語のリーディングでは、「試験時間に照らして全体の文章量は多く、大問の数減らして構成を変更することなども検討できる」との指摘があった。リーディングの平均点は100点満点中

2問が50点だった。来春からは、近代以降の文章は大問三つで計110点、古文と漢文は計90点。試験時間は10分増えて90分となる。

大学入試センターが22年11月に公表した国語の試作問題では、「第3問」の例が二つ示された。このうち、生徒が気候変動をテーマにリポートを書く設定の問題では、資料として横書きの文章2本と、4枚の図やグラフが示され、関係者を驚かせた。

河合塾で現代文を教える福永寿美子講師は、大問一つが、複数の文章を合わせた読み取る「関連づけ」の問題となるのは大きな変化だと指摘。「追加される大問では、文章やグラフ、表のすべてを細かく読むのではなく、解答に必要な情報を的確に集める力が求められるようになる」と話した。

51・54点で、21年から始まった共通テストで過去最低だった。

政治・経済の平均点は100点満点中44・35点で、前身の大学入試センター試験を含めて過去最低を更新した。外部評価では「文章量がこれ以上増えると、思考力を働かせる時間が限られてしまったため、文章量の制限等が必要であると思われる」と踏みこんだ指摘もあった。